

あえて当たり前のことを、そして、子どもの話に耳を傾けて

校長 西川 芳夫

小さい頃、私たちは祖父母や両親、地域の年長者から、人として当たり前のことをよく聞かされたように思います。「人様に迷惑をかけるな。うそをつくな。親や先生のいうことをしっかり聞きなさい。弱いものいじめをするな。好き嫌いするな。」など、その時は「またか。うるさいな。」と思いながらも、少し時間がたつと、当たり前のことを聞かされたことで、何かしら愛情を感じ、妙に不思議な安心感を持った気がします。

今は、こういった当たり前のことを、子どもたちは家庭や年長者から聞かされることは少なくなってきたのではないのでしょうか。私自身も親として、また年長者としてそうです。子どもには「うるさい」（今は、「うざい」？）と言われそうですが、当たり前のことを私たちは親として、年長者として、子どものためにあえて言うていくことが大切なのではないかと、最近、特に思うようになってきました。

ただ、何でもかんでも頭ごなしに言うことは逆効果です。常日頃から子どもの話を聴いてやるのが大切なのでしょう。どうしてもわが子のことになると一生懸命になりすぎて、子どもが話をし始めるとすぐに否定し、考えを改めさせようとしてしまいます。まずは、「聴くことに徹する」こと。「うんうん、なるほど。」「よく考えてるね。」とうなずきながら、子どもの思いをはき出させることが大切なのだと思います。思いを出させることで、人の話を受け入れるスペース、ゆとりがでる。その時に話をし、考えさせる。でも現実にはなかなか難しいことです。それを承知で書かせていただいています。ある講演会での話です。「最近、親は子どもの話を聞かなくなった。逆に、子どもが親の話の話を聞いている家庭が増えている。」親の話の内容とは、仕事上の疲れや悩み、人のうわさ、日常の不満などだそうです。親の悩みのはけ口（聞き役）になっている子どもが増えていると講師は話していました。詩を紹介します。

『子は親の鏡』 ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



生徒指導コーナー

生徒指導部 山下和彦

7月の生活目標 人の話をしっかり聴こう

7月の生活目標は『人の話をしっかり聴く』です。1学期を締めくくる7月、暑くて集中力が切れそうな7月、この目標に取り組んで自分を高めてください。

ところで、【聞く】と【聴く】にはどんな違いがあるのでしょうか。

調べてみると、【聞く】は音や声などが自然と耳に入ってくることで、【聴く】は積極的に耳を傾けること、とありました。これを考えると、授業や会話、部活動など人と接する時には【聴く】が大切になっていると言えます。

また、【聴】を分解してみると、【耳+目心】となり、耳に加えて目と心できく、ということになります。つまり、【聴く】とは《心を込めてきく》であると言えます。しかし、この《心を込めて》をついつい忘れがちです。ただ単に掃除をする、シュートを打つ、素振りをする、宿題をする、人としゃべる、ということがあまりにも多いように思います。これでは自分の力は向上しないし、人との信頼関係が結ばれません。7月はぜひ《心を込めて》何事もできるようにしていこう！

7/1 土曜日から3年生にとって最後の夏の大会が始まります。競技、応援、準備や後片付け、一つ一つに心を込めて全力を尽くし、君たちの熱い心と二中魂を見せつけてください。悔いの残らないよう頑張れ！

☆応援する時の約束☆

- ①服装は制服または体操服・赤ジャージ
- ②カメラ・スマホ・お菓子など不要物禁止
- ③相手チームに失礼のないように



小浜二中

検索

学校日誌

毎日更新中!

★アクセス数が増えました!!!!

★配付文書もいくつか掲載中!!!!

- ・毎月、お忙しい場合は、サインや一言でも結構です。
- ・保護者の声については次号で紹介させて頂くことがあります。ご了承ください。

二中学校だより

多田ヶ嶺7月号 保護者の声 _____ 年 組 氏名 _____

部活動コーナー

部活動担当 古田哲也

【部活をしているから何かを感じる】

エピソード①

先日の昼休み、ろう下で過ごしていると、ある生徒が話しかけてきた。「先生！夏の大会絶対に勝ってくださいね！」。話をよく聞いてみると、「〇〇部まじめに頑張っているじゃないですか！まじめに頑張っているのにだらだらしたチームに負けるのは腹が立つんです！」強い口調でそんな話をしてくれた。

今まで「愛される二中生」は地域の方、保護者の皆様、先生方に対して愛されることを目指すという思いがありました。しかし、その生徒と話す中で「愛される二中生」は二中生どうしの間でも育っていくものだと感じました。生徒どうしがお互いの部活を尊敬し合える、切磋琢磨し合える関係をどんどん築いていってくれることを今後も願うばかりです。

エピソード②

ある日の下校時間(確か遠足の日だったかな)。ある生徒が部活に対する思いを話していた。いい背番号がもらえないことや試合に出られない悔しさ、試合に出してもらうためにはどうすればよいのか…次から次へと色々なことを話してくれた。その生徒の悩みは尽きないようであった。

困難に直面するのは、それだけ真剣に自分の部活動と向き合っているからこそです。今、部活動が苦しい、つらい、つまらない、そう感じている人。考え、悩みぬき、行動し、乗り越えることで成長していきます。よく言われるようにチャンスはチャンスとしておとずれるわけではありません。チャンスはピンチの形でやってきます。今、困難な状況に立っているならば、もうひと頑張りです。ピンチを乗り越えた先にチャンスが待っているのだから。

大会に向けて二中のファンを増やすために！！

① 荷物、道具をそろえる

→チームの心がそろっている表れです。



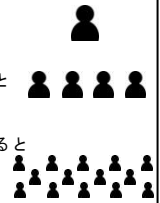
② あいさつ、返事をしっかりする

→オアシス運動を实践すべき時
→学校外でできてこそ本物の力



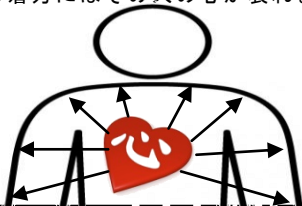
③ 時間を守る

一人の遅れ
↓ 一人が遅れると
チームの遅れ
↓ チームが遅れると
全体の遅れ
一人の行動が全体に影響を与えます



④ 身なりを整える

→外見は内面の一番外側です
服の着方にはその人の心が表れます



⑤ 準備、片づけを率先して行う

→自分たちのための大会です
自分たちで進んでやること



本当の姿は、
試合をしていない
場面で表れるもの

二中学校だより

多田ヶ嶺7月号 生徒の声 _____ 年 _____ 組 氏名 _____

学力向上に向けた取組

本校では、生徒の学力向上に向けた様々な取組を行っています。その中のいくつかの取り組みをご紹介します。

研究主任 上北理加

テスト前のスマホの扱い

テスト前になると、ノーメディアウィークと位置づけ、スマホ等の使用に関して自主的に控えるよう意識づけをしています。保護者の方から見て変化は感じられるでしょうか。ある中学校では、家庭と連携してスマホの管理を徹底しているそうです。具体的には

☆保護者に預ける。 ☆希望があれば学校で預かる。 ☆時間を守って使用する。

などです。そして、スマホの管理の達成度とテストの成績を比べると、明らかに相関関係があるそうです。実際にテスト前にスマホから離れてみて、スマホに振り回されずに済んでよかったと思う生徒の中には、スマホの契約を取りやめる人も出ているそうです。

スマホの高所持率を誇る中学生。生徒会でのスマホルールだけでなく、保護者の方と連携した取組が必要なのかもしれません。



朝学コンテスト

前期と後期に分け年に2回朝学コンテストを実施しています。朝学コンテストとは、朝学習の時間（8：05～8：20）を利用して5教科それぞれが順番にテストを作り、それに向け一週間かけてテスト勉強を進め、金曜日の本番に向かうというものです。今年度は、前期分の国語と社会については既に実施済みで、この後6月30日の数学、7月7日の理科と続きます。「確実にやり切る」ことを大切にしているため、テスト勉強期間は、テストと同じ問題を何度も解きます。そして本番では全員合格するということを目指しています。80点以上が合格で、5教科の合計点が500点で金賞、475点以上で銀賞、450点以上で銅賞として表彰されます。学力向上は日々の小さな積み重ねが大切ですが、このコンテストで合格を積み重ね、確実に自分の力になるよう、これからもこのコンテストを粘り強く進めていきます。

学級自主学ノート

家庭学習で毎日取り組んでいる「自主学ノート」の存在はご存じのことと思います。今年度は、この個人持ちのノートだけで毎日自主学を進めるのではなく、回覧型の学級自主学ノートの取組を進めることにしました。この学級自主学ノートは、そのノートもらった人が、その日だけは自分のノートではなく、その学級自主学ノートに自分の自主学習を進めます。そして次の日には次の人にノートを渡します。ノートもらった人は、必ず前日の人の取組に対し感想を書きます。どんどんノートが学級の中をめぐる中で、いろいろな人の取組を間近に見ることができます。普段は力を出し切れない生徒も、他の人が見る、みんなの共有物と考え、うかつな内容では取り組めないシステムとなっています。

学級の自主学ノートは、各クラス2冊あるため、1年生26名のクラスなら、2冊のノートで13日に1回の割合で自分の元に戻る計算になります。期末テストが済んでから実施の予定です。このノートには、見本となるノートのコピーがラミネートされ、しおり代わりに下敷き代わりに使えます。

